

通期総貨物量が21年実績超え

■IATA統計・24年

国際航空運送協会（IATA）がまとめた統計によると、2024年通期（1～12月）の総貨物輸送量（貨物トンキロ=CTK）は前年比11.3%増で、新型コロナウイルス禍の影響で需要が高まった21年の記録的な実績を上回った。平均貨物ロードファクター（LF）は前年比1.6%減だったが、コロナ禍前の19年比では39%増となった。国際貨物は、輸送量が前年比12.2%増と堅調に推移した。

国際貨物の供給量（有効貨物トンキロ=ACTK）は9.6%増、貨物LFは0.5%増の51.3%だった。

ウィリー・ウォルシュ事務総長は「昨年、航空会社はかつてないほど多くの航空貨物を輸送した。重要なことは、収益性の高い成長の年となったことだ。特に好調なeコマース（EC）と、様々な海上輸送の制限が底上げ要因となった。空域制限により主要なアジア向け長距離路線の供給に制約がかかっていたことと相まって、イールドは高い水準を維持した。平均イールドは21～22年をピークに、徐々に軟化を続けたものの、24年は19年比で平均39%増だった」と述べた。

「25年の需要予測は5.8%の成長と見ている。経済の主要な指数は、今年も航空貨物にとって良い年になることを示している」（ウォルシュ事務総長）と高水準で成長する見通しを強調した。

表① IATAの世界航空会社貨物輸送実績

市場 シェア*	24年12月実績(前年同月比)				24年1～12月実績(前年同期比)				
	輸送量 (CTK)	供給量 (ACTK)	貨物LF (ポイント)	貨物LF (水準)	輸送量 (CTK)	供給量 (ACTK)	貨物LF (ポイント)	貨物LF (水準)	
総合(国際+国内)	100.0	6.1	3.7	1.1	47.3	11.3	7.4	1.6	45.9
アフリカ	2.0	▲0.9	1.8	▲1.1	41.5	8.5	13.6	▲2.0	41.8
アジア太平洋	34.2	8.4	6.3	0.9	49.1	14.5	11.3	1.3	47.2
欧州	21.5	5.1	3.7	0.8	56.7	11.2	7.8	1.6	53.7
南米	2.9	10.9	8.4	0.8	33.5	12.6	7.9	1.5	36.6
中東	13.6	3.3	0.2	1.4	47.3	13.0	5.5	3.1	46.9
北米	25.8	5.3	2.1	1.3	42.1	6.6	3.4	1.2	40.3
国際貨物	87.3	7.0	5.2	0.9	52.5	12.2	9.6	0.5	51.3
アフリカ	2.0	▲0.8	1.5	▲1.0	42.8	8.5	13.4	2.5	42.9
アジア太平洋	30.6	7.9	8.8	▲0.4	54.5	14.4	14.8	0.8	54.5
欧州	21.0	5.2	3.6	0.9	58.1	11.3	8.2	0.4	55.6
南米	2.5	12.0	10.1	0.6	37.5	11.7	9.3	0.1	40.8
中東	13.6	3.4	0.1	1.5	47.6	13.0	5.5	0.7	47.3
北米	17.5	10.7	5.4	2.5	51.5	9.3	6.4	▲0.5	48.0

*市場シェアは2023年のCTKベース
CTK=貨物トンキロ
ACTK=有効貨物トンキロ
貨物LF=貨物ロードファクター

注)地域別航空会社の貨物輸送実績増減。市場全体および地域別成長率は各航空会社の実績レポートおよび一部レポートの無いところは推測に基づく。なお、航空会社の輸送実績は登記上の国籍をもとに地域別に振り分けたものであり、該当する地域ごとの輸送規模を示すものではない

一方で懸念もある。

「今年も間違いなく、地政学的な変化に適応していくことが課題になる。米トランプ政権が発足して最初の1週間、関税を政策手段として活用することへの強い関心を示しており。航空貨物にとり、これが、インフレの促進と貿易の縮小という二重の打撃をもたらす可能性がある」（同）と緊張感を示した。

12月単月実績を見ると、国際貨物輸送量が前年同月比7.0%増、供給量が5.2%増、貨物LFが0.9%増の52.5%。

市場シェアの高い主要路線の荷動きを見ると、アジアー北米が14カ月連続増（市場シェア24.5%）、欧州

表② 主要レーンの貨物量成長率

路線	成長率	備考	市場シェア
アジアー北米	8.0%	14カ月連続増	24.5%
欧州ーアジア	10.3%	22カ月連続増	20.4%
北米ー欧州	3.4%	11カ月連続増	13.4%
中東ーアジア	7.6%	19カ月連続増	7.4%
アジア域内	11.0%	14カ月連続増	6.9%
中東ー欧州	6.1%	17カ月連続増	5.7%
欧州域内	9.1%	13カ月連続増	2.0%
アフリカーアジア	▲4.0%	—	1.4%

ーアジアが22カ月連続増（同20.4%）、北米ー欧州が11カ月連続増（同13.4%）と、軒並み堅調な状況が続いた（表②参照）。

表②の路線ごとのデータには、経由貨物は分割されて計上されている。例えばアジア発中東経由欧州向けの場合、「アジアー中東」および「中東ー欧州」としてカウントされ「欧州ーアジア」の実績には含まれない。

詳細は表①、表②の通り。